

令和7年度【2025年度】

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	亀戸第二保育園
施設所在地	亀戸7-41-16
法人名	江東区

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

土粘土でどう遊ぶかな

<テーマの設定理由>

亀戸第二保育園は園庭が屋上にあり、土や木がないため公園に行き自然との関わり楽しむことができました。そのため、「こどもにとっての公園とは何か」を大きなテーマとしてきました。その取り組みのなかで、屋上園庭にある1㎡の砂場でもこども達がよく遊んでいることから、どうして砂（土）がこんなにも好きなのかに着目しました。そして園庭に土がないことから上記のテーマを選びました。

### 2. 活動スケジュール

- 10月 硬い土粘土（高塑性粘土）と触れ合う
- 11月 柔らかい土粘土と触れ合う
- 12月 硬さの違う粘土に触れ合う
- 1月 ライトの光をあてた土粘土と触れ合う

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

高塑性土粘土、柔らかい土粘土、透明シート、自然光、スタンド式ライト

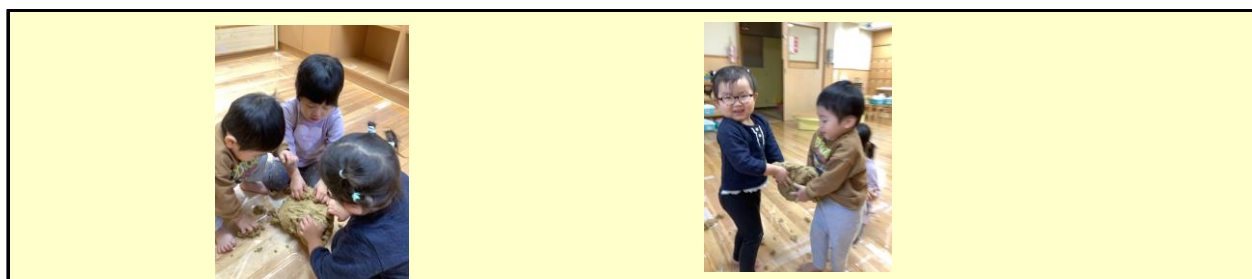
#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

1回目は部屋に透明シートを敷き硬い土粘土の塊を立てて置く。照明は半分にし自然光を取り入れ土粘土へ目が行く環境を整える。3～4人ずつで土粘土に触れ、イメージを膨らませながら触れ合いを楽しむ。2回目は粘土の素材を柔らかいものにして同じ環境を設定して楽しむ。3回目は硬さの違う土粘土を両方用意して同じ環境のもと楽しむ。4回目は今まで自然光だったところにライトを用意し粘土を照らして楽しむ。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

1回目は素材が固く、指で穴をあける、持ち上げるたたく、小さくちぎり見立てて遊ぶ。友達の言葉を聞きまねて遊ぶ。2回目は素材が柔らかく「どんぐり」「いちご」等形あるものを作り、イメージを膨らませる。また粘土の上でジャンプし足跡を付ける。3回目は硬さの違う粘土を混ぜたり、頭や首に乗せ重さの違異を楽しむ姿が見られた。また足で踏んだり、手でつぶすなど斬新で楽しむ。形が変形しやすいねんどを好む子が多かった。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

・自然光の中土粘土を塊のまま床に置くことで素材としっかり向き合うことが出来たことから、音や光を含めて環境をデザインする大切さを感じた。・粘土という素材は同じだが、じっくりかかわる中で素材の性質に気づき探究心を膨らませていたことより、時間も重要な環境の一つと学んだ。また素材と関わる際に「なんだろう」と自分の中で対話する時もあるので、探究の中で一人で入り込む時間も大切だと感じた。